

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	星空キッズツアー
支援対象者・エリア	福島県内全域 子ども中心に希望者はご家族も
企画開催地	山梨県北杜市高根町清里
企画名称	星空キッズツアー2018 in 清里
実施期間	2018年8月4日～8月6日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

2011年原発事故後の放射能汚染から子どもたちを守るため、2011年から毎年夏休みに2泊3日で福島から清里へと宿泊を行なっている。当初は、子どもたちの緊張が強く、また、子どもだけで離れて過ごすことにも慣れていないため、親元から離れて過ごすことに対するストレスもあったようだ。

毎年続けているうちに、スタッフの間でも、保養の意味をどう考えるか、話し合いがされた。2泊3日で効果はあるのかという疑問や、もっと長いほうが参加者にとってはよいかもしいがスタッフにとっては2泊3日が精一杯だということなど。しかし、無理のない範囲で続けることが大切、とのことでは一致している。

保養は、募集をかけるとその日のうちに定員を超える応募があるなど、要望は強い。キャンプ中に体調をくずした子どもが何人かいたが、日頃のストレスから解放されたため、と思われる。アレルギー症状が清里にいる間は収まっていた、という子もいる。わずかな期間でも、汚染のない地域で過ごすことは体への負担が減ることがわかった。また、日頃外遊びが十分できなかつたり、神経質になりすぎている状況から解放されて、自然の中で一日過ごし、心も体もリラックスしてもらうことが大切、として行程を企画している。

子どもの夏休みといえば、自然とふれあい、暑い日中は昼寝などしてのんびりと過ごす、イメージがある。しかし、福島の子もたちは、保養キャンプに参加し、様々な体験もできる一方で、知らない場所で、知らない人たちと一緒に過ごし、ゆったりするまもなく、次のキャンプへと渡り歩いている。ある種、非日常が続いているということ。星空キッズツアーでは、できるだけ、大人が提供するプログラムは作らず、子どもたちが興味を持ってやりたいことができるよう、環境を作っていこうと活動している。

活動の様子 (写真など)



大自然の中、たっぷり  
外で遊びました！